

「不思議音」と「家鳴り（やなり）」の関係についての一考察

横井 雅之[†]

A Study in the Relationship between “Strange Sound” and “Rattling of a House”

YOKOI Masayuki[†]

要旨

「不思議音」とは、聞いた人が首をかしげるような名前であるが、日本騒音制御工学会で制定されたれっきとした学術用語である。学会誌などを見ると、主に集合住宅に発生する発生源不明な音に適用されることが多い。とくに近年集合住宅が大量に建設されたことにより、発生件数も多くなったと思われる。一方、住宅に発生する発生源不明な音は昔から「家鳴り」と名付けられ、妖怪が家をゆすり騒いで発生している音と言われて来た。ここでは、比較的新しい「不思議音」と昔から言われてきた「家鳴り」について、その関連性を明確にしようと試みた。

キーワード：不思議音、家鳴り

1. はじめに

「不思議音」とは発生原因の特定が困難な音、また、特定が困難であった音と定義される⁽¹⁾。日本騒音制御工学会ではこの音を学術的に捉え、調査するために「不思議音分科会」が設けられた。音響関係者はマスコミなどで面白く怪奇現象と言われて来た経緯があるので適切な専門用語にしたかったと思われる。簡単に言うと「発生源がどこか分からない音」=「不思議音」である。逆に発生箇所や原因がわかってしまうと、それは不思議音ではなくなってしまう。

[†]大阪産業大学 名誉教授

草稿提出日 10月14日

最終原稿提出日 11月9日

この不思議音は主に集合住宅で問題化され、何かわからない音が聞こえてきたり、誰もいないのに戸などがガタガタすることなどが発端であり、その発生元が近隣の部屋ではなく、遠く離れた箇所であることがしばしば取り上げられている。日本騒音制御工学会の不思議音分科会の資料にはこの不思議音の種々な事例も多く示されている。不思議音は発生源が遠くでわからないことが、発生源・対策の処置を分かりにくくしている原因の一つである⁽²⁾、⁽³⁾。また、対策は個人情報の関係でケースバイケースで対応しなくてはいけないことが多い。

この不思議音の原因として（１）ポンプやエレベータの動作による設備機器の動作音、（２）冷蔵庫の振動やウオーターハンマーなど人の生活音、（３）屋上ルーバーの風切り音や建物のつなぎ目のアルミカバーなどの風や熱による自然現象とされている⁽¹⁾。

ここでは、（３）の熱などによる自然現象で家の中にいると聞こえる「家鳴り」と呼ばれる現象と「不思議音」との関係について示す。

2. 不思議音と家鳴りの関係

実際の「不思議音」では、集合住宅での騒音・振動の苦情処理に関するものが多い。しかも多くは家で何もしなくても異音が聞こえることがある。集合住宅における不思議音は多くが熱などによる異音発生であり、衝撃音の場合が多く、いわゆる耳触りと受け止められる部分が多い。このために、一度気になると、なかなか耳から離れられないと思われ、対処に時間がかかる場合が多い。

さらに、集合住宅における異音・振動に苦しめられている人にとってはケースバイケースで対処せざるを得ない場合が多い。この場合にはプライベートな領域に立ち入らざるを得ない場合もあり、なかなか解明には程遠い場合が多い。

「床鳴り」や「家鳴り」は「・鳴り」という言葉の一種であり、「海鳴り」、「浦鳴り」、「沖鳴り」、「釜鳴り」、「絹鳴り」、「細鳴り」、「鞘鳴り」、「潮鳴り」、「地鳴り」、「高鳴り」、「鏗鳴り」、「胴鳴り」、「長鳴り」、「腹鳴り」、「耳鳴り」、「面鳴り」、「家鳴り」、「山鳴り」、「床鳴り」など。いずれも音に関係している。例えば、「海鳴り」、「浦鳴り」、「沖鳴り」、「潮鳴り」は波の音を「地鳴り」および「山鳴り」は主に山崩れや地震の前触れとして音が聞こえることを、「腹鳴り」や「耳鳴り」は人間のおなかや耳の状態を表している。「細鳴り」と「高鳴り」は音の大きさを「長鳴り」は減衰が小さいことを表している。

さらに、「床鳴り」および「家鳴り」は摩擦により発生する音に分類される。

「床鳴り」は「驚張りの床」が有名である。人が通ると床が「ケキヨケキヨケキヨ」と擦れた音が鳴り、当初から「人間検知」の役目があったという説である⁽⁴⁾。しかし、これは、床板を固定するための「目かすがい」と「釘」が経年変化によりゆるみが生じ、人が床を踏むと、擦れる音が発生すると言うのが最近の学説である⁽⁵⁾。

これに対して、「家鳴り」は様々な現象が存在し、基本的には「コン」、「ピシ」という熱による音（温度変化によって熱膨張率の異なる部材間に相対変位が生じ、その相対変位が部材間の摩擦力を超えた時に発生する衝撃的な音）などが発生する。いわゆる部材の内部摩擦によって発生するために、人間の介在はほとんど無いと思われる。現在でも主に木造の家屋で、エアコンを使用した時に、特にエアコンを切った場合に柱や梁などが収縮して、音を発生させることが多い。これは、通常使用時にはファンにより送風がなされているので分かりにくいですが、offにすると送風が止んで、ファンの音がなくなり、分かりやすくなるためである。

また、「家鳴り」については水木らが著書において、小泉八雲が「化け物の歌」の中で「ヤナリ」というばけものを紹介している⁽⁶⁾。また、東野が「ポルターガイスト」として、誰もいないのにある時刻になると、家の中の家具ががたがたしたり仏壇の扉が開閉したりする様子が描写されている。最後は主人公が家の地下のマンホールにある時刻になると工場からの大量の排水が流れ、家の下にあるマンホールの蓋を振動させ、この振動が家の固有振動異数と一致し、家を共振させていたという事を解明するという筋立てである。結局は「ポルターガイスト」による心霊現象ではなく、あくまでも合理的な結果である⁽⁷⁾。

また、昔の家は冷房がなく、暖房も囲炉裏などが主であり梁や柱がむき出しになっており、内外の温度差がかなりあり、住んでいる人が何もしないのに「コン」、「バシ」、「バキ」、「バキッ」というような音が発生し、柱や梁が裂け、家が壊れるのではないかと不安感が募る。また家具などの配置により荷重が偏ることによって発生することもある。家が新築の場合も一定の状態に落ち着くまでは「家鳴り」が発生することもあると言われている。誰も何もしないのに音や振動が発生することから妖怪が家をゆすっているのではないかと言われてきた⁽⁸⁾・⁽⁹⁾。

図1、図2はそれぞれ文献(8)および(9)に示されている「家鳴り」の妖怪図である。昔の人は妖怪が家を揺らしているために、「家鳴り」が発生すると考え、妖怪のしわざであれば、このようにして家を揺らしていると想像したのであろう。図1は小さな鬼のような妖怪が家を揺すって「家鳴り」を発生させている。図2は天井を妖怪が走り回って暴れていると思われる。奥の鬼の服の柄はシロアリである。手前の柱にもシロアリがびっしり書かれている。さすがに妖怪の仕業ということは現在では言われることはないが、以上のように「家鳴り」は主に熱膨張や熱収縮により発生する音を主な対象にしている。場合によっては家具の配置が「家鳴り」を引き起こすとも言われている。

「不思議音」は常に存在するとは限らず、計測も難しく、プライベート空間に立ち入ることが多いので、対処や解決することが難しい場合がある。さらにどの時点で解決したと見るかが難しい。ただ、熱膨張や熱収縮などによる音の発生は①ガレージの屋根などに用いられているポリカーボネートが熱により変形するとき発生する摩擦音や②ガスファンヒータの冷却時に燃焼ユニットから発生する音などが類似していると思われる。しかし、これらの音は発生原

因や発生源がある程度わかっているために、「不思議音」とは呼ばれない。



図1 家鳴り「鳴屋」の妖怪⁽⁸⁾



図2 家鳴りの妖怪⁽⁹⁾

3. まとめ

「不思議音」と「家鳴り」の関係について検討してきたが、「不思議音」は近年発表された用語である。「不思議音」は集合住宅において発生する様々な異音（室内だけでない）が多いと思われる。一方「家鳴り」は家の柱や家具などが熱による影響を受け、家全体が振動し、音を発生すると思われる。「家鳴り」はすでに日本書記などに散見されており、古くから怪奇現象の一種として知られてきた。現在では、「家鳴り」も発生源の特定が難しい場合が多々あるために、「不思議音」の一種に含まれることもあると思われる。対策も工学的視点から合理的な方法が求められるようになっている。

参考文献

- (1) 中澤真司, 不思議音の原因究明方法と発生源探査方法, 騒音制御, vol.30 No.3, pp.238-240, (2006).
- (2) 山内崇 ほか3名, 不思議音の発生原因と対策事例, 日本建築学会講演論文集, pp.117-118, (2005).
- (3) <http://www.skklab.com/archives/6300> (参照2022年9月10日).
- (4) うぐいす張り 劣化で鳴くよ, 朝日新聞 (2019年12月29日).
- (5) 村山貞也, 人はなぜ音にこだわるか, KKベストセラーズ, pp.90-91 (1990).
- (6) 水木しげる, 村上健司, 日本妖怪大事典, 角川書店, pp.333-334 (2005).
- (7) 東野圭吾, 予知夢, 文藝春秋, pp.115-162 (2013).
- (8) 鳥山石燕, 画図百鬼夜行全画集, 角川書店, p.34 (2021).
- (9) <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%B6%E9%B3%B4> (参照2022年9月10日).